

## 日野原重明氏の生き方を真似よう

“シニアのアイドル”ともいうべき日野原重明氏についての記事が10月の各紙誌に載り、NHKではスペシャル番組も組まれました。「100歳の誕生日を迎えますます意欲的・・・」。大部分の記事は氏の経歴や実績を紹介しながら、10年先の講演予定まで決まっている、という生き方に驚きを寄せているものでした。

著名人でもあるし、この欄でも何回か取り上げていますので、今更、氏の経歴や言動について紹介することもないと思いますがそれでも、氏のファンでもある自分の記憶に残るものから主なものをまとめてみますと：

- ① 今なお現役の医師で聖路加国際病院の理事長職にある
- ② 1970年、58歳のときハイジャックされたよど号に乗っていて助かったことから、残りの人生は社会と人のために生きるようになった
- ③ 理事長引き受けに際し早朝8時の部長会を提案。そのおかげで阪神淡路大震災やオウム真理教事件などの対応で朝早い時間に病院が大変な力を発揮できた
- ④ 昨年は自作の「葉っぱのフレディ」のミュージカル公演にニューヨークまで行き、自分でも踊っている
- ⑤ 数え切れないくらいの著作と講演



氏の講演を初めて聞いたのは10年前の東京フォーラムでした。当時90歳、1時間立ったままの熱い口調。エレベーターやエスカレーターに乗らず早足で歩く、階段も2段跳びで上る、なんて言っていました。

一方、著作では「どれだけ長く生きるかということではなく、どれだけ深く生きるかが大切」と長寿の本質に迫り、また「あのような75歳、80歳になりたいと、生き方のモデルを探しモデルに学ぶこと。そしてその人に一歩でも近づき、さらに超えるために何をすればよいかを考え

氏のホームページから ていくこと」とも言っています。

そういう私は文字通り、日野原氏の生き方を手本としてきました。経歴も実力も氏の足元にも及びませんが、3月のこの欄の「古希から描く壮大な夢」で触れたように、未来にかける気概だけは通ずるかな、と自負しているところです。氏の話に刺激されて以来、私もできるだけ自宅マンションの7階の階段を上るように努力しています。

残念ながら、中学や高校、大学の同期の中では、古希を前後に体調を崩したという仲間が少しずつ増え（亡くなった友もいる）、将来への希望とか夢とかいったものを描けなくなった、という人も出てきています。その中で、私が「世界文学紀行」などという、やたらと大きな夢を掲げていますが、これも日野原氏の生き方に啓発されてなのです。これまでの体験や培ってきた力を最大限に発揮しながら社会のためにも貢献していきたいというのが私の最大の夢なのです。

「他人のために役に立てたということは、つまり自分という存在が活かされたということであり、生きている実感をこれほど強く感じられる瞬間はありません」「常に新しいことに挑戦し、何年も先のことを考えて行動している人は、いつまでも若々しく生きることができます」と著作でも訴えています。

この稿を読んでくださっているシニアの皆様も、この機会に生き方のモデルを探しているかたはどうかとお勧めする次第です。